

じんけんぼん

2022 年度第 2 号

2022.9.16/ No.182

就労準備支援室だより

あいネット就労準備支援室では、仕事やコミュニケーション、生活リズム等に不安のある方へのご相談や講座、プログラムを実施しています。就労準備支援室から、講座、就労支援プログラム、職業体験やボランティアの説明、相談員の活動報告等をお届けします。講座のスケジュール等、詳細な活動については、就労準備支援室通信〈スクラム〉をご覧ください。

就労体験

2022.6.9

鹿倉農園様のご協力を頂き、農業体験をさせていただきました！

当日は収穫の終わったそら豆畑のお片付け、枝豆の初収穫をさせていただき、皆さんいい汗を流しました。「また行きたい！」の声も聞けました。

帰りはそら豆・枝豆のお土産も頂戴し、それぞれ美味しくいただきました。ありがとうございました。



講座



2022.6.24

講座 [メンタルヘルス - ストレスを知る -] では、ストレスの発生の仕組み、それがどう心身に影響を及ぼすのか、どんな出来事がストレスになるのか等のお話がありました。個人ワークでは、自分自身がストレスを感じる場面や、ストレスの表れ方、「ストレスに強くなる 8 つの習慣」から自分自身が取り組みやすい習慣を選び、各自に合った具体的な予防法を考えました。

参加された皆さまも「自分に合った予防法がわかって良かったです！」とのお声をいただきました。

毎日発行！
スクラムも、ぜひご覧ください！

2022.6.17

6 月よりスタートした歌や楽器に触れて、音楽を楽しむ講座 [小さな音楽室]。あいネットが用意した歌詞カードから好きな歌を選んでみんなで一曲を奏でます。

当日はスタッフを含め 8 名、音楽を通して世代を超えて賑やかな時間を過ごせました。参加された皆さまから、「楽しかった」「また参加したい」などの感想をいただきました。



就労準備支援事業のご利用について

働くことや仕事さがしに不安等がある方、面談や訪問にて相談を聞かせていただいた上で、就労に関するサポートを行います。日中の生活リズムの見直し、応募書類の確認、就労見学・体験の調整、就労プログラムや講座の実施等を行っています。

柏市内にお住まいの方を対象としています。利用は無料、秘密は厳守します。まずは、あいネットにご相談いただき、お話を聞かせてください。

他にも例えはこんなプログラム・講座があります！

パソコン講座

それぞれのご希望に合わせてパソコンの基礎から丁寧に教えます。初心者の方も安心してご参加ください。

あいネット CAFE

お茶やコーヒー等、飲み物を持ち寄って、ざっくばらんに話しましょう。

目次

千葉県中核地域生活支援センター大会 in 2022 報告 1

ひきこもりに関する講演会報告 / 第一回地域意見交換会報告 2

千葉県中小企業家同友会例会 / 第 1 回千葉県生活困窮者自立支援実務者ミーティング報告 3

就労準備支援室だより 4

柏市地域生活支援センターあいネットでは、柏市から委託を受け、障害の有無や年齢に関わらず、生活でお困りの方の福祉に関するご相談をお受けしています。広報誌「じんけんぼん」では、日々の相談員の活動や報告を中心にお届けしています。ご相談いただくみなさん、関わりを持っていただくみなさんにあいネットを身近に感じていただければうれしいです。

柏市地域生活支援センター



報告 ①

千葉県中核地域生活支援センター大会 in 2022 at 千葉大学

地域共生社会の推進と重層的支援体制の構築

基調講演では厚生労働省地域共生社会推進室の米田室長から制度の設立背景や骨組み、そして先駆的に取り組んでいる自治体の活動など分かりやすくご説明いただきました。

後半はシンポジウムを行い、令和 3 年度から重層的支援体制整備事業を実施している市原市と松戸市の取り組み、また、事業開始に向け準備をしている千葉市のお話を紹介いただきました。登壇者から「課題の解決に必要な活動を通して重層的支援体制を構築する方法がありその方が長続きする」、「10～20年後の地域における課題を見据えて必要な取り組みを検討した方が良い」、「包括的相談支援事業、参加支援、地域づくりを重ねながら進めることが大切である」などのお話があり印象に残りました。

あいネットとしても柏市の重層的支援体制整備事業に携わる中で重要な視点を学ばせていただきました。

参加者約 370 名

会場オンライン参加含

参加した相談員の感想

各市町村で体制に違いがあり、全国的な事例や他地域の現状を聞かせてもらえる貴重な機会となりました。柏市でも開始した重層的支援体制整備事業についての学びもあり、柏市で取り入れられる内容や継続していくこと、見直しや整理を行っていく必要性を感じました。



社会福祉法人 生活クラブ風の村 柏市地域生活支援センター あいネット

〒277-0005 千葉県柏市柏 5-8-12 教育福祉会館 1 階

04-7165-8707

ainet@kazenomura.jp

月 - 金曜日 (祝日除く) 8:30 - 17:30



ainet-kashiwa.net

千葉県ひきこもり地域支援センター主催 ひきこもりに関する講演会

2022.6.17

報告 ②

講師 なでしこメンタルクリニック院長 白石和巳氏

講師を務められた白石氏はこれまで長らくひきこもり支援に携わっており、その実践に基づいたお話を聞くことができました。以下は講演内容からの抜粋です。

ひきこもりというと 8050 問題などのワードが社会問題として取り上げられることが多いですが、ひきこもりに至る年齢や背景は様々です。ただ共通点としては「人が怖い」「自信がない」と感じている方が多く、長期化すると膠着した生活状況や家族関係が継続していくようになります。当事者の不安や投げやりな気持ちは時間が経つほど強くなり、家族も社会から孤立しがちになります。まずはひきこもり状態を整理すること(原因となった精神科的病名の有無、ひきこもった年齢、ひきこもりの程度、本人の生活態度、家族とのコミュニケーションの状況、支援に対する意向など)、その原因から支援の方向性を考えることが必要です。家族だけが当事者に向き合うのではなく、継続的に相談にのってくれる支援者を得て一緒に関わってもらうことも大切です。

☑ ひきこもりの定義 (内閣府：講演資料より)
半年以上にわたり家族以外の人とほとんど交流せず、趣味の用事やコンビニに行く以外に自宅から出ない人。

☑ 8050 問題
(朝日新聞出版 知恵蔵 mini：講演資料より)
ひきこもりの長期化、高齢化から引き起こされる社会問題。主に 50 代前後のひきこもりの子どもを 80 代前後の親が養っている状態を指し、経済難からくる生活の困窮や当事者の社会的孤立、病気や介護といった問題によって親子共倒れになるリスクが指摘されている。

特に印象に残ったのは、「誰かのうまいやり方がそのまま通用するわけではない」「人の経験から多くを学べるが、本人の希望に基づく、オーダーメイドの支援が求められる」という内容です。支援者として、相談内容でカテゴライズせず、個別に対応していくことが原則だと背筋の伸びる思いがしました。

障害者就業・生活支援センタービック・ハート柏 令和 4 年度第一回地域意見交換会

2022.7.15

報告 ③

今回のテーマ 社会的自立 - 当事者と保護者の高齢化による課題を学ぶ -

株式会社舞浜コーポレーション、ノーマライゼーション推進グループのアシスタントマネージャーの古迫様から、障がいのある従業員の高齢化の具体例や日本の老障介護問題についてご説明がありました。舞浜コーポレーション様は浦安市にある某有名テーマパークの運営会社の株式会社オリエンタルランドの特例子会社です。従業員数 468 名中 315 名の方が障がいのある方だそうです。手帳の種別は身体 36 名、知的 263 名、精神 16 名で、障がい者雇用率も 2.71% となっているそうです。従業員の定着率は 97.6% でそのうち 72.7% の方に障害者就業・生活支援センタービック・ハート柏さんの様な支援機関の連携がとれている方とのことです。

障がいのある従業員の高齢化や障がいの進行により体力の低下等の課題が発生し、配置や業務に制約が生じており、当事者と保護者の高齢化による課題としてお話しされていました。

また、あいネットの事業説明とテーマにおける相談の傾向など説明させていただく機会をいただきました。あいネットからは、8050 世帯の相談で老障世帯の相談で 50 世代の方に障がい疑われることが少なくないこと、合わせて困窮に陥りやすいまたは親亡き後に困窮に陥ることが心配であると言った相談が増えてきている傾向にあることを説明させていただきました。

ご参加の各事業所に少しでも支援につながる情報が提供できればと思っております。

報告 ④

千葉県中小企業家同友会例会 「世の中には戦力化できる人、働きたい人がたくさんいる。」

2022.6.29

コロナの影響から経済が戻りつつある中、中小企業にとっては人材確保も大きなポイントになり、今回は多面的な働きたい方とのマッチング、働き方を学ぶために、学校・行政・そして実際に雇用する経営者のそれぞれの立場からのパネルディスカッションにオンラインで参加しました。印旛特別支援学校佐倉分校・佐倉市商工振興課・船橋市保健と福祉の総合相談窓口さーくる・企業組合あしたね、の方々からお話し頂き、障がい者雇用と多様な働き方を考えるという事で、参考にさせて頂きました。

パネルディスカッションの具体的な内容

- ◆ バックヤードの仕事等体験で入ることにより、スタッフの仕事が軽減された、従業員の残業が少なくなった。
- ◆ 建築・警備の人材不足で困っている企業が多い
- ◆ ハローワークとの合同面接会でも、なかなか雇用に結びつかない。
- ◆ ひきこもり・発達障害の方も増えており、人材不足で悩んでいる事業所に対しては、障がい者に対する理解と、丁寧な説明が必要とされるのではないかと。
- ◆ ハローワーク障がい者トライアルの活用・事業所にも助成金のメリット有り。
- ◆ 就労移行支援事業所の活用。低い工賃で良いので B 型事業所でお仕事を欲している。
- ◆ 等々様々なご意見が有り、企業開拓の仕事をしていく上でも、利用者の方の良い所・強みをもっともっとアピールして事業所の方に、より多くの方を受け入れ感謝頂くよう努めたいと思います。

報告 ⑤

2022 年度第 1 回 2022.6.25

千葉県生活困窮者自立支援実務者ミーティング - 法改正の動向を学ぶ -

講師 厚生労働省 社会・援護局 生活困窮者自立支援室長 唐木啓介氏

千葉県生活困窮者自立支援実務者ミーティングにオンラインにて参加しました。今回の実務者ミーティングでは、制度をめぐる現状や課題、法改正に向けた動向について学び、今後の取り組みにつなげていきます。コロナ禍における生活困窮者自立支援の現状の評価と課題、主な論点等の報告がなされました。

内容の抜粋

- ◆ 「生活困窮者自立支援のあり方等に関する論点整理のための検討会」及びその下に設置されたワーキンググループにおいて、「生活困窮者自立支援のあり方等に関する論点整理」をとりまとめ公表(令和 4 年 4 月 26 日)
- ◆ 今後、社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会において論点整理を踏まえた検討を行い、検討結果に応じて令和 5 年以降、生活困窮者自立支援法等の見直しを行う予定。

総論：(新型コロナウイルス感染症の影響)

- ◆ 自立相談支援機関の相談窓口における新規相談受付件数や緊急小口資金等の特例貸付、住居確保給付金の申請件数は急増し、とりわけ個人事業主やフリーランス、外国人、若年層などこれまで生活困窮の相談窓口にあまりつながっていなかった新たな相談者層からの相談が増加した。
 - ◆ コロナ禍においては、従来法が想定していなかった特例的な給付・貸付事務に対応した結果、従来の伴走型支援の実践が難しくなり、法の理念が揺らいでいるのではないかとの声も聞かれる。
- 主な論点として、
- ◆ 相談支援という法の理念を堅持するとともに、給付を含めた経済的支援のあり方については、相談支援とは切り分けた上で、法の枠組みを超えた社会保障制度全体の枠組みの中での検討が必要。
 - ◆ コロナ禍における経済支援策の分析・評価をした上で、今後の緊急時の政策のあり方を検討する必要。

相談員のオモイ

今回、話し合われた内容は、都心部、地方に限らず、生活困窮支援の現場の共通課題といえます。今後、支援の質や制度をどうバージョンアップしていく必要があるか、現場で働く立場としても意識しながら、幅広い視野を持ち支援を行っていきたいと思いました。